

【有形文化財（建造物）】

ふじ た け じゆうたく 藤田家住宅 オモテ ナカエ つけたり 附 ふ ぞく や 附属屋 うじがみ 氏神 いしがき 石垣 いしもん 石門

○ 所在地

薩摩川内市入来町浦之名9673

○ 所有者

個人

○ 概要・評価

藤田家住宅は、入来麓伝統的建造物群保存地区の武家屋敷群から1.5kmほど離れた位置に立つ、薩摩藩古来の郷士の武家屋敷で、主屋と附属屋を主とする敷地全体が伝統的武家住まいの構えをよく残す住居である。建築時期を示す資料は残っていないが、部材の加工痕から18世紀後半から19世紀初頭と考えられる。広い敷地を有し、敷地内にオモテ・ナカエが棟を別にして雁行して並んでおり、附属屋・井戸・洗い場・風呂場等が揃っている。さらに、石造りの石垣・石門・氏神が残る。内観の特徴として、玄関と座敷それに上段の間がまっすぐに並び、奥に床の間がある。希少な呼称「オモテンカシタ」の座敷を含む四畳間の上座敷を持ち、間取り変遷の痕跡を維持保全している。



藤田家住宅

○ 員数 2

○ 指定基準

建造物の部

建築物、土木構造物及びその他の工作物のうち、次の各号の一に該当し、かつ、各時代又は類型の典型となるもの。

(1) 意匠的に優秀なもの (3) 歴史的価値の高いもの

○ 平成30年 薩摩川内市指定 「藤田家住宅 主屋 附属屋 附 氏神 石垣 石門」